

E V E N T R E P O R T

夏の体験入学2019

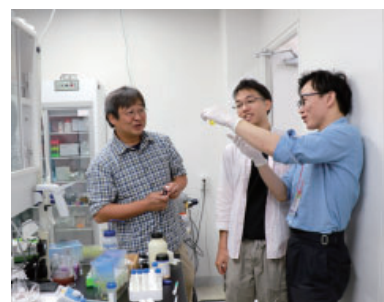
担当教員 2019年度担当教員
総合研究大学院大学 物理科学研究科 機能分子科学専攻 准教授 杉本 敏樹

2019年8月6日(火)から9日(金)までの4日間、分子科学研究所(分子研)において、国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)夏の体験入学が開催されました。本体験入学は、他大学の学部学生・大学院生を対象とするものです。各グループで行われている最先端の研究に関する体験学習を通じて、分子研(総研大物理科学研究科構造分子科学専攻・機能分子科学専攻)の研究設備・研究環境の良さを知らせられ、分子研で行われている大学院教育活動・研究者養成活動の魅力を感じてもらうことを目的としています。本年度は、選考の結果27名の学生(学部学生23名、大学院修士課程学生4名)を受け入れることにしました。レベルの高い学生の応募が多く、申し込み学生の研究活動への関心の高さを重視して選考しました。

初日の午後は明大寺地区でオリエンテーションを開催しました。総研大・分子研の紹介に続き、体験プログラム実施研究室による体験研究内容の紹介を行いました。その後に各配属研究室にて研究体験を実施しました。7日、8日の2日間は、引き続き配属研究室における研究体験を実施し、最終日の9日の午前にUVSORと計算科学研究センターの

施設見学会を開催し、その後に体験入学報告会を実施しました。報告会では、3日間の研究内容に加えて、体験入学を通じて見えてきた各学生の今後の展望等を1人あたり5分程度で発表してもらいました。目を輝かせながらエネルギーに研究内容や夢を語る学生が非常に多く、実りの多い体験入学プログラムであったことをリアルに感じることができました。また、高いレベルでの質疑応答も多数みられ、参加学生同士で刺激し合う理想的な形で報告会が非常に盛り上がりました。報告会後には立食形式での交流会を開催し、特に、分子研の研究教育職員および現役総研大学生も交えて総研大・分子研における教育・研究・生活について懇談できる機会を設けました。終了後に実施したアンケートでは、実験系・理論系ともに研究体験が有意義であったとの回答が多数

を占めました。特に総研大・分子研について「研究設備が充実している」「密な研究・教育指導を受けられそう」「経済支援、研究内容共に魅力的」「研究をするには最高の場所」などの回答が多くみられ、総研大・分子研の



E V E N T R E P O R T

特色と魅力について知ってもらうことができたと思います。学部1-3年生の参加者が多かったため、来年度のオープンキャンパス等のイベントにも参加してもらうことで総研大・

分子研をより一層身近な進学先・将来の研究勤務場所として感じてもらえるのではないかと思います。

最後に、今年度も様々な方々にお手伝いをいただきました。本事業に

ご協力いただきました全ての先生方、関係者の皆様方にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

2019年度9月総合研究大学院大学修了学生及び学位論文名

専攻	氏名	博士論文名	付記する専攻分野	授与年月日
構造分子科学	JONGWOHAN, Chanantida	Brønsted Acid-initiated Formal [1,3]-Rearrangement Reaction of β -Substituted Ene-Aldimines	博士 (理学)	2019.9.27
	SHEN, Guanshuo	The development of green catalysts for organic transformations	博士 (理学)	2019.9.27

総合研究大学院大学2019度(9月入学)新入生紹介

専攻	氏名	所属	研究テーマ
機能分子科学	PALASSERY ITHIKKAL, Jaseela	物質分子科学研究領域	Lateral Junction for Organic Solar Cells